

第三百七十五回 青葉会

平成二十九年六月二十二日(木)

午後五時半〜八時半 文京区民センター

〈顧問〉

☆ 川合万里子 先生

〈選者〉

◎ 川口孤舟

〈出席者〉

今井紀久男 大林猛 川口孤舟 久米五郎太 小西弘子 豊田ゆたか 星田啓子  
山内天牛

〈投句〉

伊賀山そらお 柿崎忠彦 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 古田昇 宮内規雄  
山崎亜也 山田けい子 渡邊盛雄

〈紙上選句〉

赤田堅 安部眞希子 楠田彦十 在間千恵 庄司龍平 高橋敏郎 早川允章 福島正明  
MH氏 村田くに子 山本三恵

《互選句》

六点

◎ 泣くまいと迷子の我慢立葵  
☆◎ 欄外に一句添えあり夏便り  
(☆↓「欄外に夏の一句や友の文(よき)」)

☆ 闇深し胸にまつすぐ螢入る  
(☆…「入る」↓「入り」)

弘子 (眞・孤・龍・ゆ・啓・M)  
健介 (紀・万・孤・彦・允・く)

五点

◎ 万物を墨絵となして白雨かな  
☆ 遠雷や余命を洩らす無二の友  
母の日や奥にひっそり古箏笛

全 (紀・孤・五・敏・允・啓)  
堂哉 (万・ゆ・M・く・天)

四点

☆ 河童絵の団扇(うちせ)ピアノに飾りをり  
(☆↓「河童絵の団扇をピアノに飾り在り」)

ゆたか (堅・眞・龍・允・M)  
紀久男 (万・千・天・三)

☆ みちのくの友の便りはさくらんぼ  
(☆↓「みちのくの友からさくらんぼ便り」)

猛 (堅・万・弘・千)

☆ 洗はれて谷中生姜のほんのりと  
(☆↓「洗ひあげほんのり紅き谷中生姜」)

孤舟 (猛・五・千・啓)  
弘子 (紀・万・五・允)

☆ ぬかるみを遊びにする子等梅雨晴れ間  
(☆↓「ぬかるみは子等の遊び場梅雨晴間」)

ゆたか (猛・彦・弘・啓)  
啓子 (猛・万・千・ゆ)

黒楽(くろらく)に翠(みどり)潜むや風光る  
(「楽展」にて) (下五が春の季語の為とらなかつた。↓「風薫る」等)

全 (堅・千・敏・三)

☆ 峡(かじ)に入る古寺に青き螢かな  
(☆↓「峡の古寺青き螢の目覚しく」)

けい子 (堅・眞・万・M)

三点

☆ 冷酒(ひき)でパス待つ列や枇杷熟るる  
蒸し暑きミナミ占領華語韓語  
廊下から妻の小言か遠き雷

天牛 (彦・允・正・三)  
紀久男 (堅・万・龍)

◎ 十葉や小さき不満拡がりぬ  
池の面を草書となりて渡る蛇

全 (猛・敏・く)  
忠彦 (紀・彦・龍)  
孤舟 (猛・彦・敏)  
五郎太 (孤・正・天)

☆◎ 大南風(おおみなみ) 旧邸多き海の町  
(☆…上五↓「大南風(はとや)」)

弘子 (万・孤・正)

☆◎ 憂さ忘れんとてがむしやらに洗ふ髪  
(☆↓「がむしやらに憂さ忘れんと髪洗ふ」)

恵洲 (紀・万・孤)

☆ 奥入瀬に六月のオゾン浴びに行かん  
(☆…格助詞「に」は時間的・心理的なる点を指定する↓「奥入瀬へ六月のオゾン

全 (万・ゆ・天)

浴びに行かむ」)

☆ 沙羅散りし石やはらかに花を受け  
(☆…娑羅。夏椿の別称。大きな白い花を咲かすが間もなく散る)

ゆたか (万・敏・啓)

二点

- ☆ 紫陽花の一期一会の色に咲く  
昇 (堅・五・ゆ)
- ☆ 空豆を剥きつつ母の独りごつ  
啓子 (万・弘・ゆ)
- (☆…下五「独りごつ」↓「独り言つ」)
- ☆ 遠雷や書物読みさし空見上ぐ  
規雄 (万・龍・正)
- ☆ 籐寝椅子妻には妻の夢有りし  
盛雄 (紀・正・く)
- ☆ 雲切れて四片(よひち) (四葩) 輝く散歩道  
そらお (紀・万)
- (☆…四葩||あじさいのこと。特に俳句で用いる)
- ☆ 粽(ちまき) 解き孫の活躍ほめあひて  
記久男 (弘・敏)
- ☆ 治療とや放射線浴び梅雨に入る  
忠彦 (眞・万)
- (☆…上五↓「治療てふ」)
- ☆ 蛇皮を脱ぎてもいまだ爬虫類  
孤舟 (万・三)
- ☆ 車庫に売る踏台茶碗籐の椅子  
弘子 (万・天)
- ☆ 摩天楼のバベルの塔やはたた神  
昇 (眞・紀)
- ☆ 十国を数ふる峠うつぎ咲く(十国峠にて)  
啓子 (万・天)
- (☆…下五↓「空木咲く」)
- ☆ 芍薬やほどけてジゼルのチエチエのごと  
全 (弘・千)
- (チエチエはバレエのドレスの由)

一点

- ◎ 「遠雷」やガリ版刷の文芸誌  
規雄 (孤・龍)
- ☆ 梅雨晴間城の幟は中村座  
けい子 (万・三)
- ☆ 桑の実や濃い紫に口も手も  
天牛 (万・く)
- (☆↓「口も手も桑の実の濃い紫に」。子供の頃母によく叱られました)
- 「お印(しるし)」は木香(もっこう) 薔薇と今満開  
全 (猛・弘)
- ☆ 梅雨晴間リユックを背負ひ寺社巡り  
そらお (く)
- ☆ 夜明け方何処へ行つたか夏布団  
猛 (万)
- ☆ 毎年よ父の日贈る大吟醸  
全 (万)
- ☆ つゆあけの沖繩こちらついたりとは  
全 (万)
- ☆ 落陽を背負ひヨツトの戻り来る  
孤舟 (允)
- ☆ 女郎蜘蛛星の電波へ手を伸ばす  
全 (五)
- ☆ アロハシヤツ南の花と太陽と  
五郎太 (万)
- ◎ 半夏生まだ押すべきか退くべきか  
全 (孤)
- ◎ 雲厚く茅輪くぐりの長き列  
全 (孤)
- ☆ 天山の風を運びし紅の花  
全 (M)
- ☆ 青梅や婦人と藤村並ぶ墓  
弘子 (万)
- ☆ 目のやまい体質遺伝や木下闇  
健介 (万)
- ☆ 夜を連ね捲(めく)る司馬遼明け易し  
堂哉 (紀)
- ☆ 真鶴の浜の白波散紅葉  
ゆたか (M)
- ☆ 夏至の朝オスロの湾に家點々  
亜也 (万)
- 「水無月」を供す茶席の夏越(なごし)かな  
全 (紀)
- (茅の輪くぐりの夏越の祓のあと食する京銘菓)
- 若き日は姑(はは)も笑顔のサングラス  
けい子 (彦)
- ☆ 梅雨晴間孫は自転車漕ぎ始む  
天牛 (万)
- ☆ 梅雨に入る庭師仕事を終へし日に  
全 (紀)
- ☆ ヴェランダのイタリヤトマトにジャズ聴かす  
盛雄 (万)
- ◎ 時の日や時には揺れる不整脈  
全 (孤)

●次回青葉会

七月二十七日(木) 午後五時半〜八時半 文京区民センター

▲当季雑詠五句 投句二句

八月二十四日(木) 築地「紅蘭(こうらん)」にて暑氣払句会 会費ラ長

以上 文責 紀久男

